

令和元年度 第3回  
全国健康保険協会福岡支部評議会 議事概要

日 時：令和元年10月18日（金）10：00～11：40  
場 所：博多三井ビル 8階会議室

出席評議員：井上評議員・鬼崎評議員・高田評議員・永水評議員・馬場園評議員  
・濱地評議員・藤田評議員・米田評議員（五十音順）（9名中8名出席）

1. 議題

- （1）令和2年度協会けんぽ保険料率について
- （2）令和2年度 福岡支部保険者機能強化予算案について

2. 議事概要

（1）令和2年度協会けんぽ保険料率について

事務局より、資料1、2、3及び参考資料1に沿って説明。

《主な意見と回答》

【被保険者代表】

健康保険組合の財政の見通しでは、2025年度にむけて保険料率10%を超える組合がさらに増えてくるのが危惧されており、協会けんぽに収斂されてくる可能性もあるため、解散する健康保険組合の状況も考慮して今後の試算をするべきではないか。

【事務局】

平成31年3月末で解散した大規模な健康保険組合の解散以降大きな動きはなく、解散する健康保険組合の状況をどのように試算に反映させるのか、難しいところもあるが、ご意見として頂戴したい。

【被保険者代表】

収支見通しでは、保険料率を9.8%に引き下げたとしても、数年は現状の準備金を概ね維持できるものとなっている。  
準備金が積み上がる中で、保険料率を下げられないというのは納得がい

かない。保険料率を引き下げる議論を本部にもしてもらいたい。

**【事務局】**

仮に保険料率を9.8%に引き下げた場合、2029年度（令和11年度）には準備金残高が法定準備金の水準を下回り、急激な保険料率の上昇につながるが見込まれる。

現在、協会けんぽは国から16.4%の国庫補助を受けており、平成27年度から国庫補助率は16.4%で恒久化されてはいるが、平均保険料率を引き下げたとなると、財政当局に協会けんぽの財政が改善したと捉えられ、国庫補助率の引き下げにつながる可能性が高いと考えている。

**【事業主代表】**

人口構成を考えれば5年後、10年後に健康保険制度が厳しい局面に立たされるのは明らかで、厳しい時代の到来に備えることが必要であるし、この皆保険制度が維持・継続されることは事業主としても切に願っている。法定準備金が積み上がっている安心感があるからこそ、より一層医療費の削減にも注力して考えていかないといけない。

**【学識経験者代表】**

健康保険制度を継続的に維持していくためには、ある程度手堅くやっていくことも必要である。

**【被保険者代表】**

本当は積み上がった法定準備金を使って保険料率を下げてもらいたいが、今後の社会情勢等も鑑みそれが難しいのであれば、保険料率が少しでも上がらないよう、医療費が増えない施策をどうとるべきかを考えることが重要である。

また、インセンティブ制度は地域ごとの財源の奪い合いであってはならないし、わずかな財源で労力をかけられないという議論になってしまえば、医療費の抑制にはつながっていかない。全支部が納得できる指標を立てることが大事である。

**【学識経験者代表】**

大都市は医療機関が多く、病気になっても受診しやすい環境にあるため、健診受診率が低く、逆に地方は医療機関が少ないため、健診の機会にいろいろ検査をしておきたいという、環境面の構造的な問題があ

り、健診や保健指導でインセンティブをつけるのは問題であると思っている。

【被保険者代表】

現行のインセンティブ制度は後期高齢者支援金に係る保険料率にインセンティブを働かせているということであるが、医療費抑制の観点からも、医療費適正化の取り組みについても直接的にインセンティブを働かせるようにしてもいいのではないか。

【事務局】

インセンティブ制度については今後、運営委員会でも議論されることから、いただいたご意見については本部にも報告する。

(2) 令和 2 年度 福岡支部保険者機能強化予算案について

事務局より、資料 4 及び参考資料 2 に沿って説明。

【学識経験者代表】

医薬品適正使用促進事業について、睡眠導入剤など、確信的にやっている人に対しては、なかなか効果が見込めない。

実際、後期高齢者を対象に長期投与などを調査したが、高血圧、心臓病、糖尿病などは明らかに不適切とはいえない。

重症であればあるほど、複数の薬剤が投与されているが、明確に問題があるのは向精神薬である。

電子化して薬剤師がすべてを見れるようにしないとお薬手帳だけで確認しようとしても難しいと思われる。

アレルギーなどは非常に使用割合が高く、アレグラなどセルフメディケーションの推進なども効果があるのではないか。

【事務局】

薬剤師会とも相談しながら事業を行っていきたい。

【学識経験者代表】

薬局・薬剤師会と連携すると同時に医師とのつながりもきちんと整理しておかないと事業はすすまないだろうと思う。

( 以 上 )